

継続的安全性向上を進める上で、規制機関の組織はどうあるべきか
～議論の素材としての「振り返り」～

標記の問いに対し、直ちに正面から答えることは容易ではないが、視点を変え、過去及び現在の規制機関の在り方を、自ら批判的に（あたかも第三者のように）検討し、その自己認識のありさま（無意識のバイアスの有無など）を含めて議論することで、問題の所在を明らかにできるのではないか。

今回の検討に供する資料 2～5 は、上述の趣旨にそって、規制機関側の出席者がそれぞれ個人の見解として取りまとめたものであり、本紙は、それら全体を通覧し、問題意識を整理し、明示するものである。

- 【資料 2】更田・市村「アクシデントマネジメント・確率論的リスク評価に係る日米の主要な時系列」は、日米の規制機関における取組の歴史的経緯を比較検討することにより、規制当局の判断に与える背景や要素、優先順位付けに与える影響に関し、議論の素材を提供しようとするものである。
- 【資料 3】荻野「原子力規制委員会の設置をめぐる議論（特に、行政委員会（いわゆる三条委員会）制度の選択）を振り返る」は、原子力規制委員会の設置に到る議論を、より広い行政組織論の文脈を踏まえて振り返ることにより、現在の組織形態に込められた国民の期待、規制活動の正当性（rightness）と正統性（legitimacy）に与える影響等について議論の素材を提供しようとするものである。
- 【資料 4】正岡「プラント側審査における事業者との議論例 ～審査現場における規制側と事業者のコミュニケーション～」は、実際の規制活動における規制機関と事業者との「議論」の様子を、個別の事例を引いて概観するものであり、事業者のインセンティブ/ディス・インセンティブの構造に、規制の現場における規制機関の「態度」が影響を与えているかどうかについて、検討の端緒を示そうとするものである。
- 【資料 5】堤「経営層（CEO）との対話の場での問いかけや提案の例」は、規制委員会と各事業者の経営層と対話の場における規制委員会からの問いかけや提案について整理するもので、競争性に乏しい原子力事業者に対し、規制機関の側からゆらぎを与えようとする取組の可能性と限界について、議論の素材を提供するものである。